

1 単元構想 3年国語 登場人物について、話し合おう「モチモチの木」 (全11時間)

単元
目標

- 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結びつけて具体的に想像することができる。
- 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。
- 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。
- 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。

読書タイム・読書週間
斎藤隆介作品の読み聞かせ

「半日村」 ・山をけずって湖に埋めるなんてびっくりした
・一平が最後まであきらめなかったところがすごい
・半日村が一日村になったことがおもしろい ・他の話も読んでみたいな

学級文庫の充実をはかる。
斎藤隆介作品
「半日村」「花さき山」「三コ」
「ソメコとオニ」「八郎」

「モチモチの木」はどんなお話かな？①②③

初発の感想を交流しよう②

題名読み・全文通読・初発の感想をもとう①

- ・「モチモチの木」は、どんなお話かな？ ・知っているよ
- ・モチモチの木って、どんな木かな？
- ・モチモチがおもしろい ・お餅みたいなものが作れる実がなる
- ・こわい感じがするね ・この木がモチモチの木かな
- ・どのおくらの大きさかな ・家の6倍くらいあるよ
- ・お話を読んでみたい ・だれが出てくるかな

物語の内容を確認しよう③

- ・登場人物はだれかな
- ・豆太が主人公
- ・対人物は、じさまかな？モチモチの木かな？
- ・モチモチの木は人物じゃないよ
- ・「モチモチの木」はどんな話？
- ・豆太が勇気を出してじさまのはらいたをなおす話
- ・おくびょうな豆太がじさまのために勇気を出す話
- ・豆太がじさまを助けるけど、
またおくびょうな豆太にもどる話
- ・いろんな豆太が出てくるね
- ・豆太はどんな子なのかな？
- ・第1場面は「おくびょう豆太」ってなっているね
- ・場面ごとの豆太の様子はどんなかな？

扉の挿絵を
用意して、想
像を広げる

登場人物と場面の確認
をする。
難読語の理解をおさ
える。
挿絵や豆太の4回の「じ
さまあ。」の台詞を提示
し、場面の状況を把握
しやすいようにする。
中心人物と対人物をお
さえる。

じさまはどんな人なのかな？④

- おくびょう豆太 やい、木い
- ・ぐっすりねむっている真夜中でも
目をさましてくれて、やさしい
- ・たった二人でくらしている豆太がかわいそうで、
かわいいと思っている
- ・六十四の今、岩から岩へのとびうつりだって、
見事にやっている
- ・「シー」と言って、豆太を安心させてくれている
- ・豆太を大事に思っている

豆太

- ・5つにもなつて、一人でトイレに行けない
- ・「じさまあ。」としょんべんにじさまを起こす
- ・じさまがいと安心できる
- ・じさまを頼りにしている
- ⇒おくびょうな子・こわがりな子

なんで、昼と夜と豆太はちがうのかな？⑤

豆太

- <昼>
- ・木の下に立って、いばっている
- ・明るいし、じさまがそばにいる
- <夜>
- ・モチモチの木がお化けみたいに見える
- ・木がおこっているみたい
- ・モチモチの木につかまりそう
- ⇒昼はいばっている子・元気な子
夜はおくびょうな子・こわがりな子

モチモチの木ってどんな木かな？⑥

霜月二十日の晩

- ・霜月二十日の晩にモチモチの木に灯がともる
- ・「山の神様のお祭り」だとじさまが教えた
- ・ゆめみたいにきれい
- ・勇気のある子どもにしか見ることができない
- ・じさまもおとも見た
- ・豆太にも見てもらいたいんじゃないかな

豆太

- ・豆太も見たい気持ちがある
- ・はじめっからあきらめて、自分がおくびょうだと思っている
- ⇒おくびょうな子・あきらめのはやい子

登場人物の気持ち
の変化や性格につ
いて、場面の移り変
わりと結びつけて
押さえることがで
きる【思】

〈豆太について〉

- ・豆太はおくびょうだ ・昼間と夜とで、豆太の態度が違う
- ・山の神様のお祭りを見るのをすぐあきらめて、おくびょうだ
- ・じさまを助けるために、こわいのをがまんしてやさしい
- ・一人で医者様を呼びにいけない勇気がある
- ・臆病なのに、なんで一人で医者様を呼びに行けたのかな
- ・じさまのことが大好きなんだと思う
- ・なんでモチモチの木の灯を見れたのかな
- ・勇気を出せたから、モチモチの木の灯が見れたんだと思う
- ・豆太がおくびょうにもどっておもしろい
- ・また、一人でトイレに行けなくなっておもしろい

〈じさまについて〉

- ・豆太のために目をさましてくれて、やさしい
- ・豆太のことを大事におもっている

〈モチモチの木について〉

- ・豆太が名前をつけた
- ・夜のモチモチの木がこわそう
- ・なんで、モチモチの木に灯がともったのか？
- ・灯がついたモチモチの木がきれい

〈物語全体を通して〉

- ・むずかしい言葉がある
- ・地の文がナレーターみたいになっている
- ・場面ごとに題名がついている

文章を読
んで理解し
たことに基
づいて、感
想をもつこ
とができる。
【思】

感想交流の中で、感想
が集中しているところ
や、ずれのあるところ
を整理し、解決して
いきたい問題を明確
にしておく。

登場人物の会
話や行動、様
子、語り手の
言葉などに着
目して読み、
様子や行動、
気持ちや正確
を表す語彙を
ゆたかにする
ことができ
る。【知】

豆太はなんでモチモチの木の灯を見れたのかな？⑦

豆太は見た

- ・じさまは豆太を心配させないようにしている
- ・医者様は「灯がついたように見える」と言っている

豆太

- ・「じさまあつ。」と「じさまつ。」が違う
- ・豆太は夢中で医者様を呼びに行った
- ・医者様を呼びに行ける勇気があったから
- ・いたくて、寒くて、こわかった ・あきらめていたのがうそみたい
- ・じさまを助けたい優しさがある ・じさまを死なせたくないから勇気が出た
- ・じさまを助けたい気持ちが、こわい気持ちに勝った
- ・勇気が出たから、モチモチの木の灯が見れた
- ⇒勇気のある子・優しい子・やるときはやる子

「豆太」の優しさと勇
気が行動に表れてい
ることを読んでいく。

どうして豆太はまたしょんべんにじさまを起こすのかな？⑧

弱虫でも、やさしけりや

- ・じさまは、かわらず優しいまま
- ・じさまが「勇気のある子どもだった」とほめた

豆太

- ・「じさまあ。」としょんべんにじさまを起こす
- ・最初の豆太に戻っちゃった
- ・じさまが元気になったから、また甘えたい
- ・しょんべんに一人で行くことは勇気とはちがう
- ⇒おくびょうな子・こわがりな子・甘えんぼうな子
⇒豆太は勇気があるの？おくびょうなの？勇気があるの？

地の文に着目して
「語り手」の「豆
太」に対する見方
も捉えられるよう
にする。

豆太は勇気のある子なの？おくびょうなの？

勇気のある子

- ・大事なときにはちゃんと勇気を出せる子
- ・山の神様のお祭りを見る、
勇気のある子
- ・いざというときに勇気を出せる子

やさしい子

- ・じさまのために、一人で
医者様を呼びに行ける優しい子
- おくびょうな子
- ・勇気が出せたけど
いつもはおくびょうな子

- ・豆太は変わったのかな
- ・もともとやさしいよ

行動や様子を表す表現に着目して、「豆太」の
性格や気持ちを捉えることができる。【思】

学習感想

- ・おくびょうでも大事なときに勇気を出せる豆太は、勇気のある子だと思う
- ・最初と最後で、どっちもおくびょうだけど、心が変わったと思う

学習感想を交流しよう①

一人一人の感じ方の違いに着目し、自分の考え
を広げたり深めたりしようとしている。【態】

◆本時目標 行動や様子を表す表現に基づいて考えをもち、友だちと伝え合うことによって、豆太の気持ちの変化や性格を捉えることができる。

◆読み取ったことや叙述に基づいて考えを伝え合い、自分の考えと友だちの考えとの共通点や相違点に気づき、豆
太の気持ちの変化や性格を自分なりに捉える姿をひびき合いの姿とする。

《單元について》

話し合いを重ねていくと「じさまと豆太は思い合っている。好きなんだよ。」「怖がられているモチモチの木は実をたくさんつけたり、夢みtainな灯をともしてくれたりする木なんだ。」と学習問題を解決していくにつれて話し合いの楽しさも味わっていった。一方で話し合いをしても読みを深められない子どももいた。そこで、物語の内容を整理しクラスのみんなで物語の内容の構成図を作り、改めて内容を確認した。そうすることで学習問題について疑問を強くもつようになっていった。

上記のように学習問題を進めていくうちに「豆太はおくびょうなのか、それとも勇気のある子なのか。」という学習問題は、子どもたちにとって話し合いを解決したい問題となったと考えられる。みんなの感想や疑問から話し合いながら解決したいという思いをもち、話し合いにより理解を深めるという学習を進めていったからだと考えられる。単純に場面を読み進めていくだけではなく「どうしてなんだろう？」という自分たちの疑問（学習問題）をもとに話し合いながら学習を進めていくことで、「知りたい」という気持ちを持ち続けていくことができた。また、みんなが物語の内容を構成図にまとめることで、おくびょうな豆太から勇気のある豆太への主人公の変化に気づいた。そこから本当は「豆太はおくびょうなの？勇気のある子なの？」という強い疑問につながり、解決したい問題となった。子どもたちの考えでは主人公の豆太は「おくびょうだ」「勇気をもてるようになった」「元々勇気をもってい

た」という考えに分かれた。本時では、その考えを話し合うことで解決したいという意欲が高まっていった。

《ひびき合いについて》

本時では、クラスの子どもの考えがわかるように、黒板の右端を「おくびょう」、左端を「勇気」と表示した直線の心メーターに自分の考えにネームプレートを貼った。この時点で全員が同じ土俵に上がり、クラスみんなで友だちの考えを可視化することもできた。はじめに「おくびょう」だという考えから話し合いを進めた。次に子どもたちから「勇気をもてるようになった」という考えを聞いてみたいと発言があり、本文を根拠にして自分の考えを膨らませ意欲的に話し合いが進んでいった。子ども同士での相互指名を続けていったが、キーワードとなる「豆太はやさしい」「じさまが死んでしまうかもしれない」「怖かった」「じさまの命」「豆太は勇気を隠しもっていた」「豆太は元々勇気をもっていた」という考えをもっている子の意図的指名により、子どもたちの話し合いにゆさぶりをかけた。そうすることで子どもたちから「同じで・違って・繋げて」という言葉も出てきて、更にひびき合いが深まっていったと感じた。

《成果と課題》

子どもたちの感想、疑問から学習問題を作り、話し合いを進めていったことが解決したい問題になった。毎時間の授業の板書を iPad で写真に収め、それをテレビでアップに映しながら授業を進めた。こうすることで、主人公の気持ちに気が付く手立てとなったと考えられる。最後の授業では、すべての写真を模造紙 9 枚にまとめ、流れを確認することもできた。話し合いでは積極的に考えを伝えようとしている子どもが多く、相互指名をすることにより、いつも発言しない子どもも考えを伝えることができた。

本時の最後に更に「どんな豆太だったか」に気づかせたい思いから教師からの問いかけとなってしまったが、子どもからの問いになるような声かけが必要だった。板書の時間を短縮するためにキーワードを事前に作成した短冊を貼ったが、授業はライブである。準備した短冊ではなく板書を有効活用しキーワードに繋げることが望ましかったと思われる。

今回の授業で子どもの思考の流れを考えることや、教師がもっと深く教材研究することで、作者の願いや思いを捉え子どもたちを物語の楽しさに誘うことができたを考える。